

肥前 唐津

近松の遺髪塚があるまら

(佐賀県唐津市)



松浦川の河口にそびえる唐津城は、初代唐津藩主寺沢広高が、慶長七年（一六〇二）から築城し十五年に完成させた城です。現在の天守閣は昭和四十一年（一九六六）に復元され、内部は郷土資料館として、藩政時代の資料が展示されています。また本丸の周辺は、舞鶴公園として市民の憩いの場になっています。

唐津は古くから大陸文化との交流地点でした。『魏志倭人伝』にみえる「末盧

国こく』というのは、市東部の鏡山付近で、ここには古来大陸との交流により繁栄したクニがあつて、それが中国の王朝にも知られていたということです。また市街地西部には、日本の稲作発祥の地として有名な「菜畑遺跡なばたけ」があります。

唐津きんしゅうの近松寺には近松のお墓があり、次のような伝承があります。

近松は、長門国（山口県）深川の生まれで、少年の頃、近松寺の第四世住職に連れられて唐津に来て、寺小姓になりました。その後京に上って一条家に仕え、一条家を辞した後、浄瑠璃作家として世に出ました。享保九年（一七二四）十一月二十三日に死去、遺言により、近松寺にお墓ができたということです。また、近松門左衛門というペンネームについては、近松寺に学んだことから近松と称し、寺の修学少年を「さもん」と呼ぶことから、名を門左衛門としたと伝えられています。



近松寺

近松寺は、瑞鳳山ずいほうざんと号する臨濟宗の寺院で、創建は乾元元年けんげん（一二三〇二）です。その後一時中絶しますが、慶長四年（一五九九）に領主により現在地に再建されたもので、寺地は唐津城下西側の西寺町の一角を占めています。山門は慶長四年の再建時に名護屋城の一の門を移築したものと伝えられています。

境内には、近松の遺髪塚いはつづかをはじめ、とんちで有名な曾呂利新左衛門そろりしんざえもんが造ったとされる庭園「舞鶴園」、織部灯籠おりべとうろう（キリシタン灯籠）、茶室などがあります。また、「小笠原記念館」には、幕末に藩主を務めた小笠原家の家宝や、郷土の先覚者の資料が展示されています。

唐津の伝統文化では、「唐津焼」「唐津くんち」が有名です。日本三大陶器の一つ唐津焼は、素朴な土の味わいが魅力で、砂目のざんぐりとした土味の中に、わびさびの美が生きています。毎年十一月二日から四日まで、唐津の街は唐津くんち一色に染まります。曳山行事は、昭和五十五年（一九八〇）、国指定重要無形文化財に指定されました。